婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十三年五月廿三日印刷納本

產業主義と女性

生活の機械化

ラッセルとコロンタイ

產業主義と宗教

產業主義と家庭破壞

共產露國と女性生活

社會生活と家庭生活

護憲と無定見な輿論

每月一回一日發行　第五十一號　大正十三年六月一日發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

護憲と無定見な輿論

護憲派が大分氣焰を擧げてゐる。そして、淸浦首相が内閣を投げ出す日の一日も早いことを望んでゐる。新聞は皆口を揃へて護憲派に和し、其れが輿論の要求する處であると大呼してゐる。

が、私が此處で注意したいのは、淸浦内閣を倒し、新らたに組閣しようと待ちあぐんでゐる所謂護憲派と稱する人々も、決して、新手でないと云ふことである。下手な相撲取のやうに土俵の上へ出ては負け、取り組んでは投げ出された人々ばかりである。

であるから、負けてひつこんだ相撲取をもう一度かつぎ上げようとするのが國民の本當の輿論であるかどうか其處に私は疑ひを持つてゐるのである。

今迄にも、所謂國民の輿論と云ふものによつて或ひは大きな意氣込みをもつて組閣して、組閣後も猶聲望を續けてゐたと云ふ内閣があつたことを私は知らない。野黨に居る間は立派な政論を吐き、新聞記者を敬服させ、贊辭を浴びせられて居ても、一度入閣するや否や、新聞の態度はがらつと變つて惡口を飛ばされ、否、國賊呼ばはりをされると云ふのが今迄の常例であつた。

事實に於て、又、所謂憲政の神樣がコツソリ自黨を拔け出して入閣したり、短命の内閣では思ふ程の仕事が出來ないとは云へ、併し、入閣後、一大臣としての無謀、無計畫を暴露したりしたことは國民の記憶に餘りに新らたな事實である。負けた相撲とは此の點を云ふのである。

さん〳〵に失望させられ、憤慨させられた國民が性懲りもなく　又々、それ等の人々をなかつぎ上げようとするのであらうか？　護憲派の頭數が少し多いのが、國民が護憲派に信頼してゐる證據なのだらうか？　其れは新聞紙上だけの輿論ではないだらうか？

私は本ものの、日本國民の輿論は外にあると云ふ氣がする。唯、其れを發表する機關が無いのだと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産業主義と女性生活の機械化

産業主義と宗教　此の頃、宗教家がなか〳〵活動して居られます。殊に、佛教の僧侶が大道說教をして居られる處などを見ると其の意氣や壯と云ふ感じを否むわけには行きません。思想の惡化、世態の混亂に應じての彼等の奮起に對しては感謝の念さへ沸いて來ます。

けれども、一日の烈しい生存競爭に疲れた頭を休めるための散步の足を止めて、又は、夜になつてもまだ氣忙しい思ひで買物に出かけた足を止めて聞いて居る聽衆の頭に其の說教がどの程度にて響いて行くか？　他の言葉をもつて云ふならば、其の說教の內容なるものが、現代人の生活を支配してゐる社會的の事實とは餘まりに掛離れたものではないかと云ふような疑ひも同時に禁じることが出來ないのであります。それに付て、思ひ起すのは最近に讀んだバートランド・ラッセルの産業が宗教に及ぼす影響であります。共れを御紹介して見ます。

因襲的な形式に於ける宗教を現代の産業主義に結び付けのるは困難であるように思へる、どう云

ふわけでさうであるかをはつきり云ふことは出來ないが。とにかく、成功した資本家は容易に信者になり得る。なぜなら、彼は神佛に感謝する充分の理由を持つてゐるし、もう一ツには宗教と云ふものが保守的な力であつて、勞働者の反逆的な傾向を抑へ付けるから。

けれども、勞働者側は、何處の國でも漸々と宗教に對する信仰を失ひつゝある。で、思ふに、此れは、宗教家の收入なるものが寄附又は惠與の形で金持ちから出てゐるので、ともすれば宗教家が金持ちの肩を持つようになり、宗教其れ自身迄が金持ちの味方であるように見ゆるので、自然、勞働階級が其れに對して反感を抱くようになるのであらう。

今日の勞働者が非宗教的になるもう一ツの主もなる理由は、幼稚な元始的な生活の様式を持つて居る人々の幸不幸の原因が自然にあるのに反して、今日の產業勞働者の幸不幸が人間にあると云ふ處に歸因すると私は思ふ。たとへば、天候によつて生活する人は宗教的になりがちである。天候は氣まぐれな自然の力であつて人間の力ではないから。

昔の農夫は豊作も飢饉も其れは全く神の意志だとして祈ることを怠らなかつた。大西洋の荒い海で漁業をする漁夫は歐洲のどの地方の人々よりも信仰が深い。故に、教會が幾つも〱海岸に立ち

並んでゐる。あらゆる高所には、海上数里からも見へるような十字架が立てゝある。漁業のために海上に出てゐる間は漁夫も彼の妻も、彼の無事な上陸を熱心に祈つてゐる。上陸するや否や祝ひの酒で一切を忘れてしまうかも知れないけれども。實に、既成の宗教の全部が自然の破壊的の力を恐れ、其の力を弱めて貰はふとする企てから來たものだと見ることが出來る。

處で、產業勞働者は農夫や漁夫のように強く天候や自然の力の影響を受けない。彼等の幸不幸の原因は大體に於て人間の力である。彼等も自然の力の影響を受けることは事實である。けれども、農夫や漁夫が彼等の生活に直接受けるようなものではない。炭礦が無くなつて人々がどんな苦しみに陷ろうとも、併し、誰も、工夫が熱心に祈ることによつて神が新しい鑛脈を人間に與へるであろうとは考へない。もし、モーゼが岩を叩いて水の代りに石油を出したとしても、併し、今の人間は其れを奇蹟としては見ず、地質學上の事實として見るだらう。

事實はこうである。既成の宗教は最早新しく生れたものを押へ付けるだけの強い力を持つてゐない。それは昔の必要に應ずるために昔造られたもの、そして、云ひ傳への力で生きて居たものであるから、云ひ傳へ的に見ることが出來ないものを同化し得ないのは當然であらう。其處で產業主義

から結果する毎日の習慣や利益の變化は既成宗教の將來には致命傷となつた。宗教を公然排斥しない人々ですらも、たとへ、ぼんやりとでも此の變化を感じてゐる。そして、これが現代社會に於ける宗教の衰微の根本理由であると私は信じてゐる。

既成の宗教が新しい社會狀態に生存出來なくなつたのは全く科學の力であつたのだが、此の科學なるものが、これから新らたに生れ出ようとする宗教、たとへば、産業的社會の慾望や習慣に適合するマルクス主義の如きものゝ成長を止め得るかどうかは、これからの生きた問題である。と。

ラッセルの此の意見に對して專門的宗教家の見地からはいろ／＼の反對說もあるでせうが、併し、大いに參考とするに足るものだと私は考へます。

産業主義と家庭破壞　ラッセルは、又、産業が家庭に及ぼす影響に付て次のように云つてゐます。

産業主義の最も重要な結果の一ッは婦人を雇ふことから結果する家庭の破壞である。婦人を産業に參加せしむることは二ツの結果を齎す。其の一ッは婦人が經濟的に獨立出來るから男子に賴る必要が無くなる。同時に、子供を自分で養育出來なくなる。一夫一婦の家庭の傳統は主もなる産業國

に於ても、まだなか〳〵強い力を持つて居るから、此の產業主義の結果が著しく家庭に現れて居ないが、併し、歐洲に於ては其の全部に渡つて、既でに、始まつて居た家庭破壞の過程が戰爭によつて大いに早められた。

戰爭はあらゆる方面の仕事に婦人の手を要した。政府でも會社でも、其の他あらゆる仕事に婦人が雇はれるようになつた。そして、一旦、經濟上の獨立を得た以上、先づ、普通の婦人は昔風の結婚の制限に從つて一人の男を守ると云ふことをしなくなつた。一時は、因襲道德の支持者の努力によつて、家庭に起つた其の變化の增大が稍不明にされて居たが、併し、時が經るに從つて、其れは益々大きくなり、且ツ明らかになつて來た。なぜなら、家庭破壞は產業主義に附著して離れない特性であるから。

產業時代以前の社會に於ては金持ちは幾人かの妻達を經濟品としてゐた。貧乏人及び農夫の妻は夫の共働者であつた。又、中流以下の家庭の妻は子供の保育と家事で手一杯であつた。かくして、都會であらうと、田舍であらうと、家庭が經濟單位であつたのである。

併し、婦人が夫と同じように產業に參加するようになつた時には事情は全然違つて來る。恐らく

産業主義の成長と共に食事は各家庭に於てとらないことになるだらう。子供は彼等の時間の大部分を學校に於て又は托兒所に於て費すことになるだらう。今は、學童に晝食だけを與へてゐる學校があるが、やがては朝食も夕食も學校で與へるようになるだらう。

で、こうなると、夫婦の經濟的關係はズット弱いものになつてしまう。妻の家庭に於ける仕事も無くなつてしまうわけである。そして、今日迄存在してゐた結婚の形式が無くなつてしまうであらうと云ふことは相像に難くない。婦人は彼女の經濟上の獨立を何處迄も保存しようとする。そして、子供に關しては、一人の男の擀腕に賴るよりも、むしろ、國家に賴つて居ようとする。私は此の變化が望ましいとも望ましくないとも此處では論議しないが、併し、これが産業主義に附きものであることを云つて置く。

故に、非常に有力な或る力によつて喰ひ止めるのでなかつたならば、其の傾向は益々增大し、實現されて來るのである。そして、それは、社會が個人を益々烈しく壓迫すると云ふ結果を齎すのである。

家庭は、今迄は、個人の安心出來る隱場所であつた。國家、又は、輿論の力とは掛離れた休息所

であつた。そして、優れた趣味や意見を持つた人は、自分の特長を家庭に於て子供に傳へることが出來た。けれども、子供の經濟上の負擔及び教育を全部國家が引き受けるようになつた時には、家庭は全然破壞され、小國民の凡てが同じように一ツの鑄型の中に入れられてしまうことになる。そして、人間の貴い個性と云ふものが弱くされてしまう。

共産主義露國と女性の生活　さて、バートランド・ラッセルは産業主義に伴ふ家庭破壞が善か惡かは此處では議論しないと云ひながらも、其れが個人並びに次代のために不都合なものであることをほのめかして居るのでありますが、併し、露西亞の勞農政府は何等の躊躇も反省もなく、家庭の破壞、人間生活の機械化を實行しつゝあります。

アレキサンドラ・コロンタイ夫人は勞農政府に於て重要な位置を占め、今は、駐諾大使となつてノールウエーへ行つて居ますが、彼女の家庭に對する意見は次の如きものであります。

家庭及び結婚は過度時代に於ける歴史的の現象である。從つて、一時的のものである。最初、生産を目的として造られた家庭は、現代の資本主義の社會に於ては、消費を目的として存在してゐる。けれども、勞働者の共和國に於ては最早其の家庭なるものは存在の理由を失つてゐる。なぜなら

勞働者の共和國に於ては、公立臺所、公立被服製造所、洗濯所、被服の修繕所迄も社會經濟の一部となり、其の社會的消費が個人的消費に代つたからである。

かくの如くに、經濟上の目的を取り去られてしまつた家庭は當然解散すべき運命を持つてゐる。そして、結婚に關しては、共產黨の社會に於ては、唯、相互の意志の合致を基礎とするので、そして、男女に同じ權利と義務とが與へられてあるから、二重標準は無くなつてゐる。且ツ、性慾は本能であるから、如何なる形式によつて其の滿足を得るとも其れは罪でない。と。

實は、これは、私が今より四年前に反譯した『女』の著者マグダレン●マルクス女史が露西亞婦人を視察して步いた時にマルクス女史にコロンタイ女史が云つた言葉であります。コロンタイ女史の意見のようなものに對しては今迄に幾度も〳〵、私は反駁して置きましたから、此處には略しますが、もう一ツ御紹介して置きたいことは、マルクス女史が露西亞の或る工場を視察した時の話であります。

同じ共產黨に屬するマルクス女史は矢張り露西亞崇拜者の一人で露國に於て行はれてゐるものゝ全部を好意の目で眺め、そして、工場の設備の整頓をほめた後に一女工との對話を揭げてゐます。

女史はナタシヤと云ふ一女工に彼女に子供があるかどうかを尋ねました。 ナタシヤは四人あること三人は學校へ行つて居るし一人は其の工場の托兒所に居ると答へ、

「あなたに私の赤ん坊を見せて上げませうか？」と云ひました。 其處で、 女史はナタシヤと共に、工場を出で中庭を横ぎつて、 一ツの小屋に這入りました。 其處には三十人ばかりの赤ん坊がキアー〳〵ギヤー〳〵騒いで居ました。 ナタシヤは

「これが私のピーターですよ」と云ひながら、 小さい手を空に振り廻して居る赤ん坊に彼女の兩手を差しのばしました。

「私は此の子を朝此處へ連れて來て置いて一日のうちに二度づゝ乳を呑ませに來ます。」

と云ふか云はないうちに、 次の室から一人の女が飛び出して來て、

「お前は其處で何をして居るのだ！ 今はお前の時間ではないぢやないか！」

と叱つたので、 ナタシヤは半分だき上げた赤ん坊を再び小さい 寢臺の上に落して其のまゝ、 悪るさをした子供のように女史と共に其處を逃げ出して來た。 と云ふのです。

我が子を愛撫したいと思ふ時に抱くことも許されない 女工生活の憐れさを私はシミ〳〵と感じま

した。工場勞働をして居るために、經濟上の獨立はあるかも知れません。けれども、感情の自由は全く奪はれてしまつてゐます。それでも、一個の人間としての自由があるのでせうか？

經濟の獨立が重いか？

母としての感情の獨立が重いか？

私は、たとへ、經濟の獨立が確立しても、女性として母としての感情の獨立が無いならば、女性並びに子供、引ひては、種族のために有害であり不幸であるとも、決して、利益でなく幸福でないと信ずるものであります。

家庭を破壞に導く產業主義、並びに女性の生活を機械化しようとする露國の政策（露國ばかりでなく世界各國勿論我が日本にも共の傾向は日々に增大しつゝあります）は何處迄も呪ふべきものであると私は信じます。

家庭生活と社會生活　社會組織の單位に家庭が代表しなければなまりせん。家庭に於て、人、、はより廣い社會生活に對する訓練を積まなければなりません。生產の術、並びに、所有品の處理法のみならず、共同生活に關する義務及び權利も人は家庭に於て學ばねばなりません。凡ての形式の數

養の發端は家庭のうちにある筈です。宗教の本質に就て、政治上の見解に關して、子供は家庭に於て父母から學ぶべきです。さうすることによつてのみ、人間は人間らしい貴い人格が築かれるのです。
　完全な集合的設備の中へ入れられて凡ての人間が何不都合ないようになつたならば。個人の努力が必要でないようになつたならば其の結果はどうなるでせう？　人間は單に生きてゐるばかりであると云ふことになる。さうなると又あらゆる禍と墮落が其處から這入つ來るでせう。

國賓と藝妓

　御成婚奉祝の催しものに東京藝妓組合が華々しい手古舞を出さうとし、警視廳では其れを許可しないと云ふ。そして、其の理由は先年御大典奉祝の際「こうしたお祝ひに藝妓などを出すとは怪しからぬ」と群衆が怒つて群集と手古舞行列とが大亂鬪を惹き起し怪我人を出した前例もあるから。と云ふことである。
　實際藝妓も日本國民であるに相違ない。そして眞の意味の藝妓は矢張り藝術家であるかも知れない。けれども、實際には神聖な國民的喜びの仲間入りをすれば一部の人間を激怒させる程一般からは劣等視されてゐる者である。又、さうされても止むを得ない實狀にある。
　處が、其の藝妓なる者が國賓を歡待する席上には殆んど無くてはならないもののようにされてゐて、今度も米國飛行家の席に多くを侍べらしたさうだが一體、それは國賓に對して失禮な仕うちではないだらうか？
　それとも、我が日本では世界列強なみの飛行家もなく、米國からは『劣等國』の刻印を貰つたが、併し、日本には藝妓と云ふ者があると世界に誇るつもりなのだらうか？

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

搾取否定者の搾取

『脫營して牢屋にはふり込まれてゐたと云ふ理由で自由思想家であると自稱する人々は基督を再び虐殺する殺人狂である。再び基督を殺すとは基督を信じてゐる人の心に存在してゐる基督迄をも殺さうとすることである。』とパピニは彼の基督傳の最初に云つてゐる。

今日の所謂自由思想家は外部に現れる人の行爲を制限することに對してすらも反抗して止まないそして、それを自由の名で絕叫してゐるにも拘らず、その自由をあまりに主張するの結果人の心に存在してゐる意見迄をも干涉處ではない、殺してしまはうとしてゐる。

如何なる思想にしろ、他からの干涉を受けずに發表し得られるのが本當の思想の自由であらうと思ふ。けれども、所謂自由思想家、殊に社會主義的、無政府主義的乃至共產主義的傾向を持つた思想家は自分の思想に反對するものは理が非でもねこそぎ撲滅しようとする。けれども反對する人、反對される人の意見と云ふものは冷靜に考へると可なり同じようなことを云つてゐるのである。

獨逸と云ふ國は平和な時には集合主義者によつて治められ、戰爭の時には軍人によつて支配される運命をもつた國である。處で、軍國主義も集合主義も個人の生活から見た時には實際上大した違ひはない。社會主義もその社會主義の賛成者によつて描かれた處によると如何にも軍隊生活に似てゐる。

社會主義者は第一に私有財産制度と富の獲得を攻撃する。凡ての私有財産と凡ての富は他人のものを搾取したのだと云ふ理由で。處が實を云ふと今日の不完全な社會に於ては讀書家とか購讀者とか何何會員とかその外何々と云ふ名で一部の人間を搾取しなかつたならば何等の富も得られない。否食ふことすら出來ない人間が大分ある。であるから、一方は九割五分の搾取であり、他の一方は二割五分の搾取であると云ふ差があるだけで、そして、多くは二割五分の搾取を基礎とする組織を選むより外に方法がないのだ。

要するに、理想國家の空想を恣にする男女の數が今日殖へつゝあると云ふことは大分のどもとがあたゝかいと云ふことの證據で、一杯元氣でウツヽを云つてゐると思へば不都合はないが、これを眞面目に實行されることになると大いに考へなければならない。

婦人子供洋服仕立
和服仕立
毛糸編物仕立

◆御約束の時日までに必ず御仕立致します

◆丈夫な材料が取揃へて御座います

◆材料を御持合せでしたらお仕立だけさせて頂きます

◆お手紙を頂けば早速參上致します

◆御希望の方々には御教授致します

東京府下東中野字原一七九六　栗田かつ

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用には五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十三年五月廿三日印刷納本
大正十三年六月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八